



無断転写転載は法律で禁じられています。

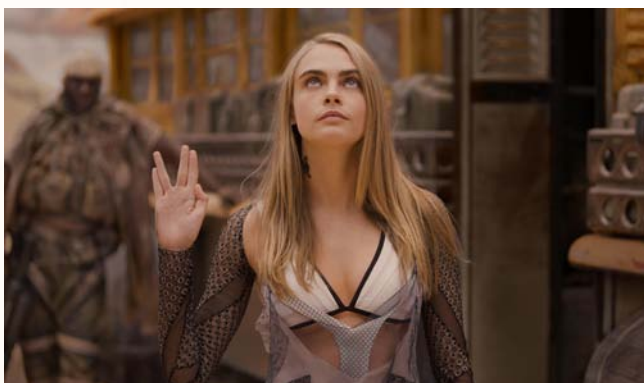
Valerian - Die Stadt der tausend Planeten

(仏、138分、7月20日公開)

(原題 Valerian and the City of a Thousand Planets)

あらすじ

28世紀の宇宙、時間と空間の秩序を守る特殊捜査官Valerian (Dane DeHaan)は、任務遂行もさることながら、同僚のLaureline (Cara Delevingne)の心も手に入れようと挑戦中。しかし見目麗しく自意識も高いLaurelineは一向に相手にしない。そんな中、2人は、宇宙大都市Alphaの危機を察した司令官Arun Filitt (Clive Owen)の命を受け探索に乗り出す。しかしLaurelineが誘拐されてしまい、Bubble (Rihanna)の手を借りることになるが…。



Luc Besson監督はお話しの魅せ方がやはり巧い!そこへもってCara Delevingne嬢、さすが元?モデルだけあって何を着ても、どこを歩いても、どんなポーズでも綺麗で見とれた。

あのキリッとした顔立ちはもちろん、お仕舞いで見せる女の子表情も見逃さないで欲しい。彼女に圧されないようDane DeHaan君も安定の演技で健闘している。

それとRihanna姐さん。ポールダンスでの表現はカッコ良く決まっていて、当然のごとく魅惑的。けれど演技はねえ、ま、歌手なので目を瞑っちゃいませよ。この作品は、1967年初登場してから2010年まで、22冊に及び人気を誇るフランスコミック「Valérian et Laureline」の映画化。同コミックを少年時代からこよなく愛しているLuc Besson監督が脚本も担当している。90年代に映画化を一旦は断念した監督が、009年公開のJames Cameron監督の「Avatar」を観て、その技術の可能性に、いよいよ時機到来、と2010年には製作に取り組み始めたそう。

SFと言うより宇宙恋愛物と括ると、1997年公開のBesson監督による「Das fünfte Element (原題 The Fifth Element)」の方が見応えあると感じるのは、主役たちの力量の違いか、年を重ねたBesson監督の落ち着きに由るのか?

ともあれ、観ていて屈託ない1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。